

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200634		
法人名	社会福祉法人 槃特会		
事業所名	グループホーム さくらおか		
所在地	宮城県登米市米山町字桜岡大又232番地2		
自己評価作成日	2020年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2020年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

例年は法人内の行事や地域の催事、四季を感じて頂けるよう観光地等へのドライブや外食等、又地域の皆さんとの交流を行ってきましたが、昨年度末からの新型コロナウイルスの感染予防の観点から、法人内行事や地域の催事等の中止、外食やドライブ等の自粛により、定例行事がほぼ実施出来ない状況です。今年度は施設内もしくは法人内(外部の方の出入りのない)の行事を計画し、四季を感じて頂けるよう支援を行っています。食事面では地域の旬の食材を使用し、栄養バランスに配慮し提供しており、簡単な調理や盛り付けなど利用者様と一緒にしています。同性支援等、利用者個々の思いやペースに合わせた支援を基本にし、状態の変化に合わせてケアプランの見直しや支援方法の検討を行っております。共生型グループホームの特徴でもある「ただいま」「おかえり」を大事にし、家庭的な雰囲気の中、利用者様の笑顔が多く見られるような環境作りと、家族との情報共有を心掛け、信頼関係の構築に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、自然豊かな田園地帯の一角にあり、周辺には球場、公民館、駐在所、お寺などがある。敷地内に法人の特別養護老人ホームや短期入所施設が隣接し、協力が得られやすい。共生型グループホームとして家庭的な雰囲気の中、高齢者と障がい者が関わり合いながら良い関係で生活している。職員は、理念「自分らしくあり、地域との関わりを大切に『共に暮らす家』を目指します」をその都度確認しながら、利用者の生活歴や趣味、生活習慣等を把握した上で、利用者の意向を尊重してケアに努めている。地域とのかかわりも積極的に行い、例年は地域のお祭りに参加したり、ホームの行事に招待したりボランティアとの交流を定期的に行い、利用者の楽しみに繋がっている。事業計画に基づき毎月、避難訓練を実施している。同法人の施設との合同防災訓練で地域住民の協力を仰ぎながら実施し、災害に対する備えと地域の協力関係が得やすい環境づくりに努めている。今年度はコロナのためすべて控えている。嗜好調査を実施し利用者の希望を取り入れた献立や行事食、地域から差し入れされた野菜で作る旬の献立など、食を楽しむ工夫がなされ、利用者も残存能力を生かし、できることをしながら共生の姿が具現化されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームさくらおか ）「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に1回職員会議の場で理念についての話し合いの場を設け、再確認をしながら職員個々が実践に繋がられるようにしている。	理念「自分らしく」「地域とのかかわりを大切に」は、年度初めの会議で読み合せると共に、事務所に掲示し常に確認している。利用者の意向を尊重し、利用者が役割をもち共に生活するという視点で支援している。利用者の楽しみである地域行事を積極的に取り入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、幼稚園児との交流会や地域の行事、地域の方のご協力を頂きながら流しそうめん等のイベントを開催しているが、今年は新型コロナウイルス感染防止の為、全ての行事・イベントが中止となっている。	例年は、地域の行事に参加し、幼稚園児との交流会を行ったりしている。合同防災訓練で地域住民の協力を得ている。家族や地域の子供会の協力を得ながら、交流することができていた。今年度は、コロナ禍のため実施できていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年実施している合同防災訓練の際に、地域の方々に車椅子の使用方法などをお伝えしているが、今年は新型コロナウイルス感染防止の為、中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々から色々な意見を頂き、それを実践した結果を次回の会議で報告・評価して頂きサービスの向上に生かしている。今年度は新型コロナウイルス感染防止の為、開催中止している。	例年は、区長、民生委員、地域包括職員、市・長寿介護課、地域商工会、家族の代表、管理者、職員の参加のもと2ヶ月に1回奇数月に開催している。活動報告や事故防止、行事等で利用者の様子を伝え、質問や要望を聞き、アドバイスを業務に活かしている。今年度は3月まで開催し、その後中止している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き施設の現状報告を的確なアドバイスを受けている。防災訓練等、町の担当者と連絡を取り合い、訓練を重ねることで協力関係を築いている。今年度は運営推進会議、防災訓練等の開催を中止しており、電話にて報告・相談等を行い、アドバイスを頂いている。	例年は市職員が運営推進会議に参加して、行事や経営面で相談しアドバイスをしている。市主催の新型コロナウイルス感染予防の研修会が2回開催され、ホームでの対応の仕方を運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、その内容を伝達研修として職員間で情報共有している。又、職員会議においても、意見交換をし職員個々が理解を深め支援に生かしている。	身体拘束委員会を設置し2ヶ月毎に1回開催し、ホーム内のケアの状況を確認し、職員会議で報告している。スピーチロックについても確認しケアに努めている。利用者の外出傾向をつかみ、散歩に少し離れ同行する等、できるだけ要望に応え精神面の安定を図っている。地域住民との馴染みの関係を築き情報提供等の協力を得ている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様からの相談は必ず管理者に報告し、早めに改善に取り組んでいる。又、職員間での会話の中で、悩み等を聞き取りし、互いに声を掛け合いサポートしながら業務を行っている。職員会議において、虐待について振り返る機会を作っている。 1/8	虐待防止の内部研修は年2回実施し、身体拘束、人権擁護の内容も含めて職員の意識啓発を行っている。言葉遣いやケアの仕方などお互いに気づいたことを伝えあい、改善に努めている。外部研修は、コロナ禍で今年度は行われていない。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、得た情報を職員会議の場で職員全員へ情報提供し、理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入・退所時には事前に内容説明を行い、疑問点については十分に説明させて頂いている。又、契約内容に変更があれば随時電話や面会時等に説明を行っている。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートや意見ボックスの設置、家族交流会等にて要望等の確認を行い、その内容は職員会議で報告・検討している。又、運営推進会議にもご家族に参加して頂き、要望等を聞き運営に反映させている。今年は新型コロナウイルス感染防止の為、家族交流会は中止している。	家族にアンケートを実施し、要望などを聞いている。例年は運営推進会議に家族が交代で1人出席し意見・要望を出している。これをケアや事業運営に反映させている。年1回家族交流会を実施し、ホームでの様子をDVDで紹介し、理解を得ている。現在は面会制限があるが、玄関先で対応しホームでの様子を伝え、要望などを聞いている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や面談時に、職員個々から意見等を聞き、改善可能な点から運営に反映させている。又、日常会話の中で意見等があれば随時管理者へ相談出来る体制をとっている。	年1回、管理者は職員と面談し、目標達成計画と進捗状況を確認し職員の意見・要望等も聞いている。月1回、職員会議で運営状況、行事、ケアについて意見を聞き、検討している。シフト時間の区切りの変更などの提案があり改善し、安心して勤務できる体制ができた。管理者やリーダーに相談できるようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者だけでなくリーダーにも、職員個々の不安や疑問点等が相談できる環境にあり、無理をしない職場環境の構築に取り組んでいる。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々が外部研修に参加できるようにし、又職員会議の中で伝達研修を通して職員の知識・技術の向上に取り組んでいる。又、業務の中で経験のある職員からの助言を通し、職員のレベルアップに取り組んでいる。			
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修等へ参加し、他施設との情報交換ができる場を設けている。研修で得た情報は職員会議の場で全員に周知し、質の向上を図っている。	同法人の障がい者施設の行事の見学を行い交流を深めている。7組織(特養さーらの樹、さくらおか、他グループホーム事業所、地区の自主防災会等)と合同防災訓練を毎年実施しており、災害時の連携ができています。特養開催の研修に参加しサービスの質の向上に繋げている。また、特養と共同で委員会を設置している。新型コロナウイルス感染対応他、各種マニュアルを検討している。	サービスの質の向上に向けて、法人全体で各種マニュアルの見直しを行い、さらに交流や連携する取り組みを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来る限り、ご本人様の要望に沿えるようご本人様との話し合いの場面を設けている。又、ご家族様に面会依頼をし、不安軽減が図れるよう努めている。他利用者様との会話においては職員が間を取り持ち、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談事や要望等には全職員が一丸となり、連携を図り対応していくことで、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族に意見や要望をお聞きし、ケアカンファレンスを行い職員間で共通理解を図り、サービス提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれの身体状況や思いに合わせ、役割を持ち協力して生活が送れるよう、関係作りに努めている。又、趣味や娯楽を共有し、利用者様同士一緒に楽しめる環境作りに取り組んでいる。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や毎月のお手紙にて生活の様子をお伝えしている。又、年4回広報誌を発行し外出やイベント時の写真等を載せ、近況をお伝えしつつ、ご本人様とご家族様が共有できる話題作りに努めている。日常会話の中でも、ご家族様の事について話題提供し、安心に繋げている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年の親友からの電話やお手紙等は随時ご本人にお渡しし、関係が継続できるよう努めている。	例年は、家族が通院介助する際に買い物に行ったり、食事をする機会を設けている。散髪は、訪問理容が月1回予定され、本人、家族に意向を確認して利用している。回覧板、広報紙等を回覧し、地域情報を得ている。家族や親戚が面会に来ている。家族や親戚からの贈り物に手紙等でお礼を伝え関係が途切れないよう支援している。現在は、玄関で利用者の様子を伝えるなど工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、円滑な関係を築けるよう、場合によっては職員が間に入り、コミュニケーションが図れるよう努めている。又、日常的に家事を一緒に行う中で、良好な関係が保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所をされる際は、退所後に入所する施設に情報提供し、相談等にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との普通の会話の中から、思いや生活の意向を伺い、職員間で共有し支援に生かしている。又、必要時にはケアカンファレンスを実施し、支援方法を検討・対応している。	利用者の職歴、生活歴、趣味等を把握し、音楽や手作業等の活動に取り入れたり、料理等得意なことができるようにしている。食堂や居室、入浴介助等マンツーマンで関わる際に思いを聞いている。意思表示できない利用者には、表情等で把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、ご本人様、ご家族様、担当ケアマネ等より、これまでの暮らし方等を聞き取りし、生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様やご家族様等からの情報や会話の中から現状の把握に努め、職員間での情報共有に努めている。体調の変化にも迅速に対応できるよう、こまめにバイタルチェックを行い、状態把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時等、ご本人・ご家族・職員の三者で話し合える場面を設け、今後の意向等を伺い介護計画に反映させている。又三か月に一度、もしくは心身の状態変化に応じてカンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。	利用者や家族の意向、職員の意見をもとに3ヶ月に1回カンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。利用者の残存能力を發揮できるよう配慮している。食事摂取や排泄、入浴時の援助方法など職員の意見や、特養の看護師のアドバイスを計画に反映させている。家族には面会時又は郵送で説明し、了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに日常生活の様子を記録に記入し、気づきのポイントとなる事は職員間で申し送りノートを活用し情報の共有に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望に対し可能な限り沿えるよう対応している(通院・買い物・外食・ドライブ等)。今年は新型コロナウイルス感染防止の為、実施は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会や秋祭り、合同防災訓練への参加、幼稚園児との交流等を行っている。今年は新型コロナウイルス感染防止の為、中止となっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の要望に応じ、かかりつけ医や協力病院と連携を図り受診に繋げている。急変時等必要に応じて職員が同行し医師に状態説明をしている。又、ご家族様が通院対応される際は、施設での生活状況等をお伝えしている。	協力医療機関がかかりつけの利用者は、週1回の訪問診療を受けている。他のかかりつけ医の受診は家族が付き添う。職員は、口頭でバイタルや日々の状態を伝え、受診後に報告を受け、申し送りノートや個人の記録で情報を共有している。特養の看護師と連携しており、情報の共有を図っている。緊急時は協力医療機関や協力老人福祉施設と連携を取り対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な受診や利用者様の状態変化が見られた際は速やかに看護師へ報告・相談をし健康面の維持に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必要に応じて面会に伺い、医師や看護師に様子や経過等について聞くようにしている。退院の際も病院との話し合いの場を設け、現状の把握と今後の経過観察について指示を仰いでいる。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族の意向については年1回意向を伺い、かかりつけ医との情報共有を図っている。	毎年、終末期の支援の意向調査を行い確認している。口からの食事摂取が困難になるなど重度化が進んだときには、家族に医師から説明し、対応を検討している。特養へ入居支援することもある。ホームでの看取りの実績はない。緊急時には病院へ搬送し入院することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備え、マニュアルを元に対応できるよう職員会議等を活用し、定期的に確認している。又、毎月の職員会議で利用者様の状態等を確認し、状態把握に努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定し避難訓練を実施している。例年地域の方々と合同防災訓練を実施し、協力体制を話し合っているが、今年は新型コロナウイルス感染防止の為中止となっている。	火災、風水害、地震時のマニュアルが作成されている。事業計画に基づき毎月、避難訓練を実施している。特養さーらの樹、他のグループホーム、地区の自主防災会等、7組織により合同防災訓練を行う際には、区長、民生委員、桜岡商工会、近隣も参加し、様々なケースでの避難方法を学んでいる。食料品等は1週間分を備蓄し、非常時に備えている。今年度は新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の掛け方や接し方など、利用者様が人生の先輩であることを忘れずに、丁寧な対応を心掛けている。又、職員間の申し送り時はイニシャルを活用し、個人が特定されないよう配慮している。言葉遣いや接遇については、職員会議において定期的に振り返る機会を設けている。	年度初めに人権の尊重、身体拘束等の研修を行っている。利用者を「さん」付けで呼び、職員間ではイニシャルで話し情報交換する等、特定されないよう配慮している。排泄介助はさりげなく居室で対応するなどしている。入浴は同性介助で行っている。言葉遣いや接し方、声のトーンにも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の希望や衣類の選択等、その都度確認し決定して頂いている。又、お誕生日にはご本人様の好きな献立を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日利用者様一人一人のペースに合わせて、食事や入浴等を調整し支援している。又、居室で趣味等を楽しまれている際は、ゆっくりご自分の時間を過ごして頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様のご希望に合わせて毎月理髪が行える体制を整えている。着用される衣類については、好きな服を選びながら季節に合った衣類着用の声掛けを支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その季節の旬の食材を使った料理を提供している。食材の下準備や盛り付け、食事の挨拶や後片付け等、利用者様一人一人に合ったお手伝いを職員と一緒に頂いている。	利用者の嗜好調査は年1回、写真入りで選択しやすいように工夫して実施し、メニューに取り入れている。管理栄養士が栄養面の管理を行っている。誕生日に利用者の希望をメニューを取り入れたり、ひな祭りやお正月、クリスマス等の行事食を設け、利用者の楽しみとなっている。利用者は残存能力を活かし、調理や配膳に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量等は、医師の指示がある場合は指示に沿って提供している。それ以外、栄養士・看護師と相談しながら献立作成及び提供を行っている。又、水分不足解消の為、個別に代替品を提供する等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様個々に適した声掛けや支援をし、必要に応じて歯間ブラシや口腔洗浄用具も併用しながら口腔内の清潔保持に努めている。又、口腔ケアの研修に参加し、伝達研修として職員間で情報共有し、共通理解を図り支援に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人毎の身体・排泄状況に合わせ、声掛けやトイレ案内を行っている。又、個人毎の排泄状況を把握する為、チェック表を作成し活用している。	排泄チェック表に記録している。トイレで排泄ができるように声掛け誘導し、状態に合わせて支援している。夜間は必要に応じ声かけ誘導し、おむつは定時で2～3回状態に合わせて交換を行っている。毎日牛乳を提供し、便秘予防に努めている。便秘の際は、水分補給や処方薬を服用するなどに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールに繋がる水分摂取量の確保と、排泄チェック表を活用し下剤の調整を行っている。又、乳製品の摂取や繊維質食材を利用した献立にも配慮している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や希望をお伺いし入浴を行っている。入浴を拒まれた際は翌日以降に再度声掛けさせて頂いたり、声掛けや対応の仕方を工夫している。場合により清拭や足浴等で清潔保持に努めている。	1日おきに週3～4回入浴できるようにし、湯は都度交換している。入浴拒否の際は、時間を変えたり職員を替えたり声掛けを工夫して対応している。拒否が続く場合は、清拭で対応している。一般の浴槽なので、要介護5の利用者には職員2人体制で介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで休みたい時は休んで頂いている。安眠確保の為、居室の温度管理に気を配り、安心して休める環境作りにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服薬については、担当職員を中心に情報共有している。処方都度、処方内容に間違いが無いか速やかに確認し、内服薬の保管は看護師が行っている。本人の状態変化等は都度看護師より医師へ報告・相談し、薬の調整等に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や得意な事を尊重し日常生活に活かしている。今年は新型コロナウイルス感染防止の為外出等は控えているが、施設や法人内のイベントに参加して頂き気分転換となる支援を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を考慮した上で、個人の買い物には随時対応している。外食や観光地等への外出等、事前に計画を立て、要望に応じた外出支援を行っている。今年は新型コロナウイルス感染防止の為、外出を控えている。	例年は年間計画を立て、花見、紅葉狩りへのドライブ等に出掛けている。他に希望を取り入れた外出もあり、特養の福祉車両を利用し、全員で参加している。日常は、買い物やホーム周辺の散歩等週1～2回出掛けている。家族との外出は、通院の際に自宅に行ったり、墓参りをしたり、外食を楽しむなどしている。今年はコロナ禍のため控えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ、職員と一緒に外出し買い物に行く支援をしている。今年は新型コロナウイルス感染防止の為、近場での買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話利用希望の際は、見守りや部分的な支援をしている。又、お手紙を出される時は、その都度支援を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、季節に応じた花や小物を飾るなど、四季を感じられるようなしつらえにしている。又、利用者様の生活リズムに合わせ、快適に過ごせるような環境作りに配慮している。	リビングは明るく開放的で、テーブルやソファが配置され、思い思いにくつろげるスペースになっている。窓から景色がよく見え、季節の移ろいを感じることができる。時計や大きな日めくりカレンダーが置かれ、見当識の維持に役立っている。廊下には、季節に合わせて利用者と職員が作った作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の長椅子や食堂で気の合う利用者様同士、談笑されている。又、職員と一緒に気の合う方同士散歩に出掛けている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の希望に沿って、テレビやソファ等の家具や、ご本人が大切にしている写真や小物等を持って来て頂き、心地良く過ごせる空間作りに繋げている。	居室は和室と洋室があり希望に合わせることができる。居室にはエアコン、クローゼット、洗面台、トイレ、掃き出し窓に小さい縁側が付いている。机やいす、ベッド、整理ダンス等を持ち込み写真や小物等を飾って居心地の良い環境となっている。利用者の希望に合わせて、温・湿度調整をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様によっては居室に専用の物干しを置き、洗濯物を干したり、整理整頓や居室掃除を行っている方がおり、利用者様の状態に応じて、それぞれ食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ等、毎日の日課となっている。		